

目指す学校像	(1) 生徒・保護者・地域から信頼され、きれいで安全で安心できる学校 (2) 生徒一人ひとりが存在感、満足感、成就感を味わえる学校 (3) 教職員が働き甲斐のある学校
重点目標	1 主体的・対話的で深い学びを通して、生きる力を身に付ける。 2 誰もが安全で安心に生活できる学校づくりに取り組む。 3 コミュニティ・スクールの機能をいかし、地域とともに歩む学校づくりを推進する。 4 「チーム土呂」の一員として、教職員の資質・能力の向上を目指す。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日 令和5年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>&lt;現状&gt; ①全体的に、授業に向かう姿勢はおおむね良好であり、昨年度の学校評価アンケートでは、生徒全体の85%以上が、「授業の内容がよく理解できている」に肯定的な回答をしている。 ②主体的・対話的で深い学びを進めていく上で、「挙手したり発表したりするなど、積極的に集中して授業に参加している」について、肯定的な回答が52%にとどまっている。</p> <p>&lt;課題&gt; ①各教科等において、何をどのように勉強していけばよいか理解できている生徒が60.6%にとどまり、生徒に学習の仕方の理解をさらに広める必要がある。 ②自分の考えを発表することや、相手の意見を聞いて自分の考えを再構築したり、他者と協働で納得解を導き出したりするなど、自分の考えを表現する力を伸ばす必要がある。</p>	<p>①生徒の「学び方」の理解度の向上</p> <p>②情報発信力の定着</p>	<p>①教員が「学びの道しるべ」等を適宜活用し、生徒の「学び方」についての理解度を高める。</p> <p>②各教科や領域等において、生徒が主体的に取り組むような課題を設定し課題解決の過程の中で、自分の考えを発信した協議したりする活動場面を意図的に設定させる。 ③タブレットなどICT機器を積極的に活用し、多様な情報発信をする場面を設定させる。</p>	<p>①学校評価アンケート 教職員「学びの道しるべ」の活用に対する肯定的回答80%以上となる。 ①学校評価アンケート 生徒の「何をどのように勉強するか」に対する肯定回答60%以上となる。</p> <p>②よい授業アンケート 「自分の考えや感想を発表する時間がある」「問題の解決に向け、自分ひとりで考える時間がある」「問題の解決に向け、友達同士で話し合う時間がある」の2回目の数値が1回目の数値である3.2以上となる。</p>	<p>学校評価アンケートより ①本校のシラバスである「学びの道しるべ」の活用については、教職員の80.0%が肯定的な回答であった。 ①「何をどのように勉強するか」については生徒の68.3%が肯定的な回答であった。</p> <p>②2回目の「よいアンケート」より、*「自分の考えや感想を発表する時間がある」は、「3.2」 *「問題の解決に向けて、自分ひとりで考える時間がある」は、「3.4」 *「問題の解決に向け、友達同士で話し合う時間がある」は、「3.2」と、いずれの項目も1回目と比して同値または上昇がみられた。</p>	B	<p>○「学びの道しるべ」をデジタル化して学校ホームページに掲載し、早期から家庭や地域に周知する。</p> <p>○各教科や領域（道徳や総合的な学習の時間等）において、生徒が自ら課題を解決していく場面を設定し、本校の課題である「自分の考えを発信する」力を伸ばしていく。</p>	<p>○「学びの道しるべ」をより家庭や地域に周知するための方法や時期について検討し実施する。</p> <p>○生徒が勉強の仕方についての参考のために、「学びの道しるべ」に、学習方法を入れてみてはどうか。</p>
2	<p>&lt;現状&gt; ①全国学力・学習状況調査より、「学校に行くのは楽しい」と思う生徒の肯定的回答は、全国平均を上回っている。 ②教職員の危機管理意識を高めるために、年度当初にアレルギー対応（エビペンの使用実践を含む）や夏季休業中に心肺蘇生法（AED、人工呼吸の実践）の研修を実施している。</p> <p>&lt;課題&gt; ①コロナ禍の長期化により、教室に入れない生徒や不登校傾向の生徒など、その対応が多様化し、校内体制の構築が必要である。 ②緊急事態が発生した場合、管理職や保健体育科、養護教諭の有無にかかわらず、教職員が適切な対応をとることができるようにする必要がある。</p>	<p>①個に応じた対応が可能な校内体制の構築</p> <p>②教職員の危機管理意識の向上</p>	<p>①教育相談部会における情報を全教職員が共有し、必要に応じてケース会議を行う体制を整える。 ①みんなの学習室（個別対応の学習室）の対応教員を時間割上に位置づけ、システム化する。 ①民生委員、児童委員との連絡協議会の開催や応援要請等の体制づくりを行う。 ①児相や支援課等の行政機関との連携を図る。</p> <p>②アレルギー対応を確認しながら誤食等が起こらないようにする。 ②指揮命令内容チェックシートを作成し、緊急時にどの教職員も適切に指示・対応できるようにする。 ②安全点検を通して、校内の危険箇所及び修繕箇所を把握する。</p>	<p>①みんなの学習室を利用している生徒に対応できるよう、教員の学習室対応の時間を時間割に位置づける。 ①民生委員・主任児童委員との連絡協議会を長期休業（夏・冬）前に実施し、学校・地域連携で生徒の見守り体制を構築する。</p> <p>②危機管理に対する教職員アンケート *アレルギー対応について、年度当初の手続きに基づいて対応した教職員が100% *心肺蘇生の対応を指示者として対応することができる教職員が70%以上</p>	<p>①時間割にみんなの学習室を担当する教職員を位置づけたことにより、全教職員で学習室対応にあたることができた。 ①7月と1月に、民生委員・児童委員連絡協議会を実施し、学校と委員相互の関係づくりのほか、委員と連携した見守り等を実施し、地域レベルでの見守り体制の基盤を築くことができた。</p> <p>②年度当初のアレルギー研修にもとづき、教職員がマニュアルに基づく対応を行ってきたことにより、誤食などの事故を発生させずに休職異動を行っている。また、緊急時の心肺蘇生指揮命令内容チェックシートを教職員に所持してもらい、夏季の心肺蘇生研修とあわせて、教急要請も含め、教職員どの状況においても緊急対応する意識とスキルを高めた。</p>	B	<p>○本校における「個に応じた学び」の提供として、「みんなの学習室」の運営を継続して行う。 ○学校・地域の連携の観点から、民生委員、児童委員連絡協議会を次年度も開催するとともに、協議会の機能を強化するために、教諭の参加をより積極的に行う。</p> <p>○アレルギー対応と緊急対応については、引き続き研修による全教職員の共通理解とスキルの維持向上を図っていく。</p>	<p>○状況を踏まえ、関係機関を活用する。</p> <p>○「みんなの学習室」の運営については、学年を超えた教職員の情報共有が大切である。</p> <p>○生徒個々の対応については、SC、SSWなど専門的な人材の継続的な投入が必要である。</p>
3	<p>&lt;現状&gt; ①本年度より学校運営協議会が発足し、学校運営に対して、学校・家庭・地域のより強い連携が求められている。 ②本校の教育活動について深い理解のある地域で学校と地域との連携が比較的構築しやすい。</p> <p>&lt;課題&gt; ①学校運営協議会の委員が、学校運営の当事者としての意識をもち、それぞれの立場を最大限にいかして学校運営にあたる。 ②学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の機能を、教職員や保護者等に周知し、学校運営の協力体制を整える必要がある。また、教職員を学校運営協議会の活動に組み入れる。</p>	<p>①学校運営上の課題に対する熟議と次年度の学校運営に関する承認</p> <p>②学校運営協議会や活動状況の周知</p>	<p>①学校運営協議会において、学校運営上の課題や目指す学校像、生徒像を共有したうえで、地域の実態を踏まえ地域とともに歩む学校づくりについて議論を深める。</p> <p>②学校ホームページや学校だより等を利用して、コミュニティ・スクールとしての機能や、学校運営協議会の役割や活動等について広く周知し、学校運営の当事者としての意識を高める。 ②職員会議等を活用して、教職員に学校運営協議会やコミュニティ・スクールについて随時情報提供をし、必要に応じて活動に組み入れる。</p>	<p>①熟議により、土呂中学校の学校運営上の課題について共有され、学校・家庭・地域それぞれの取組について方向性を持つ。 ①次年度の学校運営の基本方針について十分な議論の上、承認される。</p> <p>②学校ホームページにコミュニティ・スクールのリンクを設け、学校運営協議会での協議内容や具体的な活動について情報提供する。 ②教職員全員が、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に関する理解を持つ。</p>	<p>①熟議では、「地域ボランティアへの取組」をテーマに、学校と地域の連携について方向性を共有することができた。 ①学校運営の基本方針は、第3回学校運営協議会で仮承認の予定である。</p> <p>②学校ホームページに、学校運営協議会での協議内容や活動に関する情報を提供することができなかった。 ②職員会議等で教職員するほか、第2回の運営協議会では、生徒指導や教育相談の各主任や養護教諭が参加した。</p>	B	<p>○年度当初に家庭や地域がとらえている本校の課題や生徒に身につけさせたい力などを調査し、学校運営協議会にいかすことも考えていく。</p> <p>○学校ホームページのリニューアルにともない、学校運営協議会をはじめ本校の教育活動やコミュニティ・スクールとしての取組を積極的に情報発信する。</p>	<p>○学校ホームページや学校だより等を中心に、学校運営協議会の協議内容や活動内容等について広報する。</p>
4	<p>&lt;現状&gt; ○中堅以上の教員が中核となり、本校の教育力が維持されている。 &lt;課題&gt; ○タブレット端末の活用のほか、ループリック評価による学力向上、STEAMS教育やSDGs教育などの研究を深め、授業改善に取り組んでいく。</p>	<p>○教職員一人ひとりのスキルアップ</p>	<p>○学校課題研究や各種教育に関わる研修や公開授業等を実施し、教職員同士の学びを実践する。 ○管理職による授業参観を行い、キャリアや学校課題研究を踏まえた指導助言を行う。</p>	<p>○全教職員が、学校課題研究を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、日常的にICT機器を活用している。 ○よい授業のアンケート 因子③及び④の数値が、1回目よりも上回っている。</p>	<p>○課題解決学習の過程で、授業の目的に応じてタブレットやプロジェクター等を効果的に活用が定着してきた。 ○「よい授業アンケート」の1回目と2回目の数値を比較すると、 因子③ 15.9→16.7 因子④ 15.9→16.4 といずれも上昇がみられた。</p>	B	<p>○教職員の指導力向上や見識を深めることを目的とした研修参加の機会を充実させる。</p>	<p>○生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、ICTの活用や教職員の指導力向上については引き続き取り組んでいく。</p>